

(二) 「美松食堂」

大半の食事は学生寮に提供してもらったが昼食は外食せざるを得なかった。

寮の最寄りのバス停は「下小埜」であるが、その停留所の前に我らが「ヨシコさん」がいる大衆食堂の「美松食堂」がある。かど地を利用して、入り易い店ではあったが民家を俄かに改築した代物で広くはなかった。

テーブルが四つに棧敷席が二つあったろうか、十人も入れれば満員となる店であったが立地がよろしくて寮生のみならず一般学生も構内からグラウンドを越えて来店し加えて近隣の下宿屋からの、お行儀の悪い連中まで多種多様な学生で賑わっていた。厨房は台所に毛の生えた感じでご夫婦が頑張っていた。お運びさんが我らの「ヨシコさん」で色白ではあるが、かなりポツチャリしすぎの娘さんが甲斐甲斐しく働いていた。

実は彼女の名前は「ヨシコさん」としたものの、正確には「チヨちゃん」だったのか「キクちゃん」だったのか記憶が曖昧である。先日も寮の先輩に確かめてみたが覚えてはいなかった。それほど気になる美人ではなかったという事か……。

ともあれ店は大繁盛で、おかず二品と、ご飯の大盛り、味噌汁で九十円だった。学生にとっては有り難い価格で提供してくださる親切な群馬のカカア天下のおばちゃんが学生寮のみならず、ここにも居たのだった。

ある日、私は前日のコンパで飲み過ぎ（正確には飲まされ過ぎ）昼食にご飯など欲しくはなかったのでソバを注文することに……果たして店の壁には麺類として「たぬき」「きつね」「かけ」とだけの張り紙があった。うどん・蕎麦はどこで区別するかも分からずに例の「ヨシコ」さんに「たぬき蕎麦」を注文、ほどなく届いたのは揚げ玉入りの蕎麦だった。私は関西人である。「たぬき」は油揚げ入りの蕎麦の事「きつね」は油揚げ入りのうどんと相場が決まっているのだが、なんとご当地では「たぬき」は揚げ玉、「きつね」が油揚げで双方に蕎麦とうどんがあるとの事である。大変勉強になりました。

油揚げの入った蕎麦を欲しかったのに、やむ無く「揚げ玉蕎麦」を食する私だったが二日酔いの私には実はどちらでも良かった。なんだかタヌキに編まれた感じもした。

昭和四十二年の話である。

さしもの「美松食堂」であつたが、その後十年も経たずに閉店したと聞く。学生が贅沢になりファーストフードやらスパゲツチの店が大学の回りに沢山出来たためだとか。

ところで特殊な昼食の食事処として「群馬八幡の駅前食堂」もあつた。私が週に二日、三日アルバイトでお世話になつた高崎化学の昼食を届けて貰う食堂だつたが、メニューがテン普拉定食しかなく何時もイカの天ぷらと野菜のかき揚げに甘辛い天つゆをかけただけの代物を頂いた。五十歳を越える時、糖尿病を発症したが、まさか往時のテン普拉定食が貢献しているとは思いたくない。